

カレントアウェアネス・ポータル 利用者アンケート結果レポート 2012

平成 24 年 11 月

国立国会図書館関西館

カレントアウェアネス・ポータル

利用者アンケート調査レポート 2012 について

概要

このレポートは、平成 24 年 7 月 2 日から 9 月 28 日まで実施したオンラインアンケート調査「カレントアウェアネス・ポータル利用者アンケート」の結果を取りまとめたものです。アンケートは、カレントアウェアネス・ポータルのサービス向上を目的として、ユーザの利用実態、満足度やその理由を量的・質的両面から把握することを目指して質問項目を設定し、実施しました。寄せられた有効回答数は 349 です。

このレポートでは、カレントアウェアネス・ポータルの利用者の属性や利用形態等を量的に明らかにするとともに、自由記述で寄せられたご意見等を基に、カレントアウェアネス・ポータルの内容上の課題、デザインや機能上の課題等を質的に分析しています。自由記述で寄せられたご意見等については、意図を損なわないよう表現の一部を調整した上で、その一部を紹介しています。

質問内容

質問は全体で 20 問あり、前半の問 1 から問 15 までは選択式（単一選択・複数選択）、後半の問 16 から問 20 は自由記述形式の質問としました。

■選択式質問

- Q1. ご年齢を教えてください。
- Q2. ご職業を教えてください。
- Q3. 居住地を教えてください。
- Q4. カレントアウェアネス・ポータルをどこでお知りになりましたか？
- Q5. カレントアウェアネス・ポータルのコンテンツのご利用を開始したのはいつからですか？
- Q6. カレントアウェアネス・ポータルの利用頻度はどのくらいですか？
- Q7. ご利用するのは、主にどのような時ですか？
- Q8. どのコンテンツを利用していますか？これまで利用したコンテンツをすべて選択してください。
- Q9. 更新情報を、主にどのような手段で把握しますか？
- Q10. カレントアウェアネス・ポータルについての全般的な満足度を教えてください。
- Q11. 「カレントアウェアネス-R」の満足度を教えてください。
- Q12. 「カレントアウェアネス-E」の満足度を教えてください。
- Q13. 「カレントアウェアネス」の満足度を教えてください。
- Q14. 「調査研究」の満足度を教えてください。
- Q15. カレントアウェアネス・ポータルのサイトのデザインや機能について、満足度を教えてください。

■自由記述質問

- Q16.上記の満足度に関する問 10-15 について、具体的な理由があれば、ご記入下さい。
- Q17.カレントアウェアネスで、より頻繁に、または新規に取り上げてほしいテーマやトピックがありましたら、具体的にご記入下さい。
- Q18.カレントアウェアネス・ポータルデザインのデザインや機能面で、特に改善してほしい点がありましたら、具体的にご記入下さい。
- Q19.カレントアウェアネス・ポータルが役に立ったと感じたことがありましたら、具体的にご記入下さい。
- Q20.ご意見・ご感想等がありましたら、ご記入下さい。

広報

今回のアンケートの実施にあたっては、以下の媒体で告知しました。

- カレントアウェアネス・ポータルトップページでの告知
- カレントアウェアネス・ポータルのお知らせでの告知
- カレントアウェアネス-Eでの告知 (E218～E223)
- Twitter (@ca_tweet) での告知

この他、同時期に行われた国立国会図書館の各種サービスの利用者アンケートとともに、国立国会図書館ホームページ、国立国会図書館月報、図書館協力ニュース等各種媒体において広報しました。

本文中で使用している略称・用語の説明

調査研究	図書館協力課が実施している図書館に関する調査研究事業およびその成果物のこと。『図書館調査研究レポート』、『図書館研究シリーズ』として刊行しているもの他、オンラインのみで公開している成果物もある。カレントアウェアネス・ポータルの掲載コンテンツの1つ。
CA	カレントアウェアネス。 図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説・レビューする情報誌。『カレントアウェアネス』として年4回（毎年3、6、9、12月の20日）刊行。カレントアウェアネス・ポータルの掲載コンテンツの1つ。
CA-E	カレントアウェアネス-E。 図書館及び図書館情報学に関する最新ニュースをコンパクトにまとめて提供するメールマガジン。『カレントアウェアネス-E』として、原則月2回（隔週木曜日）発行。カレントアウェアネス・ポータルの掲載コンテンツの1つ。
CA-R	カレントアウェアネス-R。 図書館及び図書館情報学に関する、インターネット上に公開された最新情報を紹介するブログ。調査研究、CA、CA-Eのための情報収集活動の側面も持つ。毎営業日掲載。カレントアウェアネス・ポータルの掲載コンテンツの1つ。
CAポータル	カレントアウェアネス・ポータル。 調査研究、CA、CA-E、CA-Rを掲載するウェブサイト。2006年にCA-Rの開始に伴い開設。URLは[http://current.ndl.go.jp]。

目次

1. どのような人たちに使われているか？	1
2. どのように使われているか？	3
3. どのようにして利用を開始するのか？	5
4. ユーザの満足度は？	6
5. どのように役立てられているのか？	8
6. 充実すべきコンテンツは？	15
7. 見た目と使い勝手の改善すべき点は？	18
8. 今後の取組みについて	23
番外編：アンケートにお寄せいただいた温かい応援メッセージ.....	24

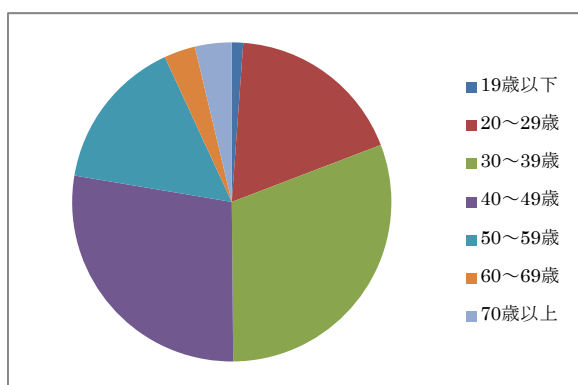
図表

図表 1 ユーザの年齢層と職業	1
図表 2 ユーザの年齢別内訳.....	1
図表 3 ユーザの職業別内訳.....	2
図表 4 利用頻度、更新情報の把握方法、利用シーン	3
図表 5 利用頻度.....	3
図表 6 更新情報の把握方法.....	4
図表 7 利用シーン	4
図表 8 利用開始時期とそのきっかけ	5
図表 9 利用開始のきっかけ.....	5
図表 10 ユーザの満足度.....	6
図表 11 ユーザ中のコンテンツ別満足度	6
図表 12 全ユーザ中の未使用者の比率・コンテンツ別満足度の比率	6
図表 13 デザイン・機能の満足度.....	18

1. どのような人たちに使われているか？

	図書館員					文書館員	研究者	学生	出版業・書店業等	IT関連	その他	総計
	大学	公共	専門	学校	その他							
19歳以下		1						3				4
20～29歳	19	6	2	1	1		4	20	2	4	4	63
30～39歳	42	14	5		1	1	16	2	7	6	13	107
40～49歳	37	12	10	4	5		5		4	7	13	97
50～59歳	17	9	8	2			9		2	1	6	54
60～69歳	1	2		1			1				6	11
70歳以上							2			1	10	13
総計	116	44	25	8	7	1	37	25	15	19	52	349

図表 1 ユーザの年齢層と職業



図表 2 ユーザの年齢別内訳

ファクトと考察

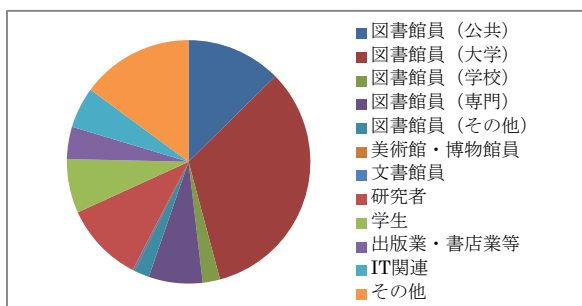
ユーザは、年齢別にみると、30代・40代が多く、それぞれ 30.7%、27.8%を占める。次いで、20代、50代が多い。60歳以上のユーザも全体の 6.9%を占める。

職業別にみると、CA ポータルが想定する主要な読者である図書館員が最も多く、57.3%を占める。特に大学図書館員が最も多く、公共図書館員、専門図書館員が続く。

一方、研究者及び学生の利用も多く、研究の場、あるいは教育の場においても、利用されている。

出版・流通の分野での利用もあり、また、IT 関連の分野での利用もある。

最も典型的なユーザは、30代～40代の若手・中堅の大学図書館員となっている。ただし、それに限定されるわけではなく、50代以上のベテラン層においても、利用



職業別	人数	割合
図書館員 (公共)	44	12.6%
図書館員 (大学)	116	33.2%
図書館員 (学校)	8	2.3%
図書館員 (専門)	25	7.2%
図書館員 (その他)	7	2.0%
美術館・博物館員	0	0.0%
文書館員	1	0.3%
研究者	37	10.6%
学生	25	7.2%
出版業・書店業等	15	4.3%
IT 関連	19	5.4%
その他	52	14.9%
	349	100.0%

図表 3 ユーザの職業別内訳

が広がっている。

職業別内訳は、CA ポータルの記事内容に相関関係があるものと推察される。幅広い主題領域を反映し、図書館を中心とする広範な業界で利用が存在することがうかがえる。

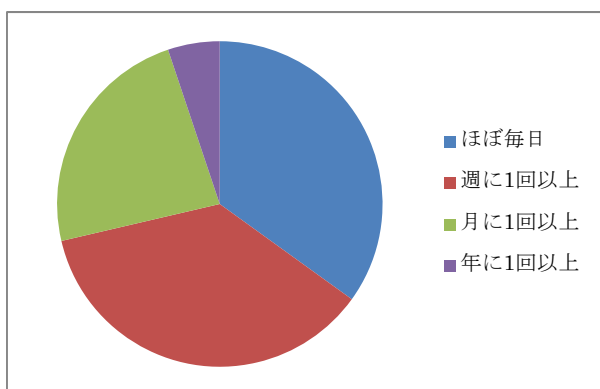
課題分析

CA ポータルの想定読者の二大グループと推察していた公共図書館員、大学図書館員のうち、公共図書館員の利用が相対的に少ない。公共図書館のテーマを取り扱った記事は多いことから、ニーズとのミスマッチが存在していること、あるいは、広報のあり方に問題があることも考えられる。また、学校図書館の間で利用が少ないことについても、原因の考察が必要である。

2. どのように使われているか？

	ほぼ毎日	週に1回以上	月に1回以上	年に1回以上	総計
通勤・通学中	12	7	1	0	20
Twitter(@ca_tweet)	5	5	1		11
RSS	5	1			6
カレントアウェアネス・ポータルで直接	2				2
その他		1			1
勤務時間中・業務の一環として	62	42	38	9	151
Twitter(@ca_tweet)	12	11	5	1	29
RSS	17	6	3		26
カレントアウェアネス・ポータルで直接	32	19	24	4	79
その他	1	6	6	4	17
勤務・学校の休憩時間中	28	26	16	1	71
Twitter(@ca_tweet)	6	7	1		14
RSS	9	3			12
カレントアウェアネス・ポータルで直接	13	16	13	1	43
その他			2		2
在宅時・その他自由時間	20	52	27	8	107
Twitter(@ca_tweet)	6	21	9	1	37
RSS	6	10	1		17
カレントアウェアネス・ポータルで直接	7	19	16	4	46
その他	1	2	1	3	7
総計	122	127	82	18	349

図表 4 利用頻度、更新情報の把握方法、利用シーン



ほぼ毎日	122	35.0%
週に1回以上	127	36.4%
月に1回以上	82	23.5%
年に1回以上	18	5.2%
	349	100.0%

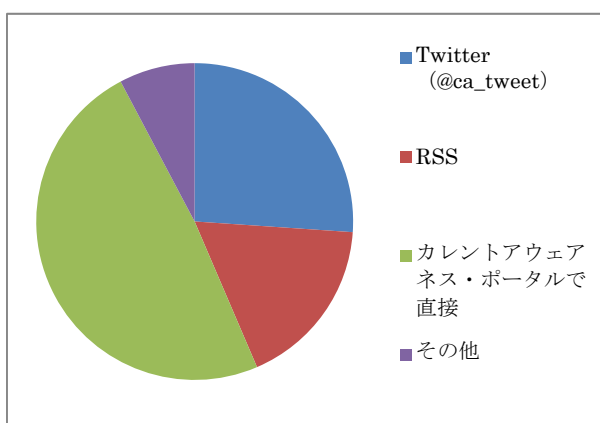
図表 5 利用頻度

ファクトと考察

利用頻度については、週に1度以上利用している人が7割強を占める。そのうち、ほぼ毎日というヘビーユーザが、半数弱を占めている。

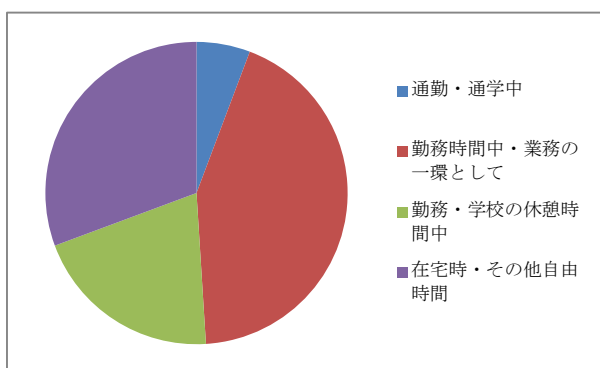
CAポータルの各コンテンツの更新頻度を考慮すると、週に1度以上利用していると回答した7割強のユーザは、CA-Rの利用をメインとしたユーザであると考えられる。

更新情報の把握方法については、CAポータルで直接把握しているユーザが5割弱を占める。一方、Twitter及びRSSでの更新情報の把握も、合わせて4割強



更新情報の把握方法	件数	割合
Twitter (@ca_tweet)	91	26.1%
RSS	61	17.5%
CA ポータルで直接	170	48.7%
その他	27	7.7%
	349	100.0%

図表 6 更新情報の把握方法



利用シーン	件数	割合
通勤・通学中	20	5.7%
勤務時間中・業務の一環として	151	43.3%
勤務・学校の休憩時間中	71	20.3%
在宅時・その他自由時間	107	30.7%
	349	100.0%

図表 7 利用シーン

存在する。Twitter のフォロワー数は、アンケート実施時点で 7,500 人超であり、更新情報の主たる把握方法となっていると想定していたが、全体の 26.1%にとどまった。

利用シーンについては、通勤・通学中など、移動中の利用をメインとしているユーザは 6%弱にとどまっている。これらのユーザの主な更新情報把握手段は、Twitter や RSS となっている。

ユーザの 4 割強が、主に勤務時間に勤務の一環として利用している。

在宅時等の自由時間での利用を主としているユーザも多く、約 3 割を占める。通勤・通学時を主とするユーザ、休憩時間中を主とするユーザと合わせると、全体の 6 割弱が、業務以外での利用を主としている。

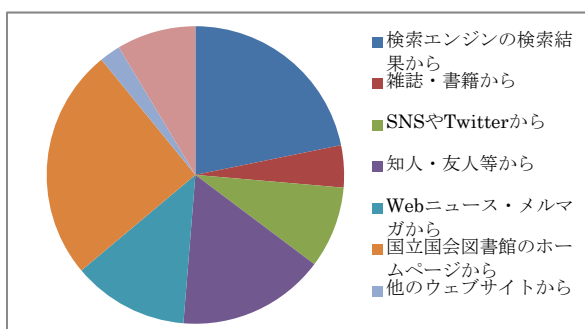
課題分析

携帯端末での利用が主となると思われる通勤・通学中の利用が少ない一方で、自由記述の設問においては、携帯端末向けインターフェースを希望する意見が、多く寄せられている。この要因には、携帯端末での利用のしづらさがあるものと考えられる。携帯端末向けインターフェースの提供が、大きな課題であることがうかがえる。(なおこれについては終了直後の 10 月に、レスポンシブウェブデザインによるインターフェースの提供を開始した。)

3. どのようにして利用を開始するのか？

	SNSやTwitterから	Webニュース・メルマガから	その他	検索エンジンの検索結果から	国立国会図書館のホームページから	雑誌・書籍から	他のウェブサイトから	知人・友人等から	総計
サービス開始当初(2006年)から	1	25	15	14	35	7	3	16	116
3年前以内	12	15	9	33	38	5	2	26	140
1年前以内	13	3	2	6	8	3	3	11	49
最近2, 3ヶ月以内	5	1	4	23	7	1		3	44
総計	31	44	30	76	88	16	8	56	349

図表 8 利用開始時期とそのきっかけ



検索エンジンの検索結果から	76	21.8%
雑誌・書籍から	16	4.6%
SNSやTwitterから	31	8.9%
知人・友人等から	56	16.0%
Webニュース・メルマガから	44	12.6%
国立国会図書館のHPから	88	25.2%
他のウェブサイトから	8	2.3%
その他	30	8.6%
	349	100.0%

図表 9 利用開始のきっかけ

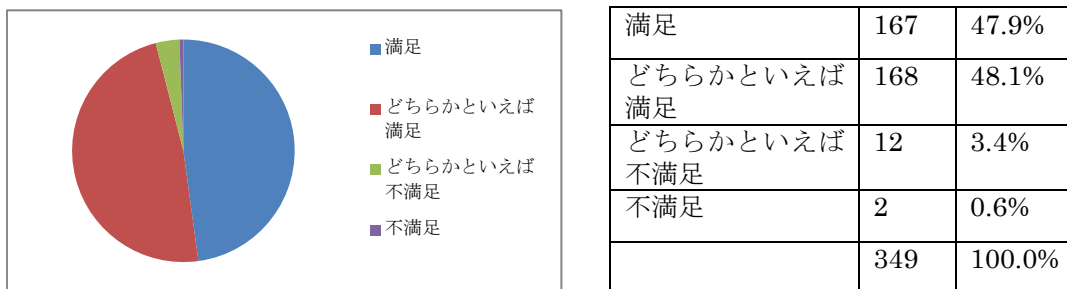
ファクトと考察

CA ポータルを利用するきっかけは、「国立国会図書館のホームページ」を筆頭に、以下「検索エンジンの結果」、「知人・友人等」、「Webニュース・メルマガ」、「SNSやTwitter」、「雑誌・書籍」である。

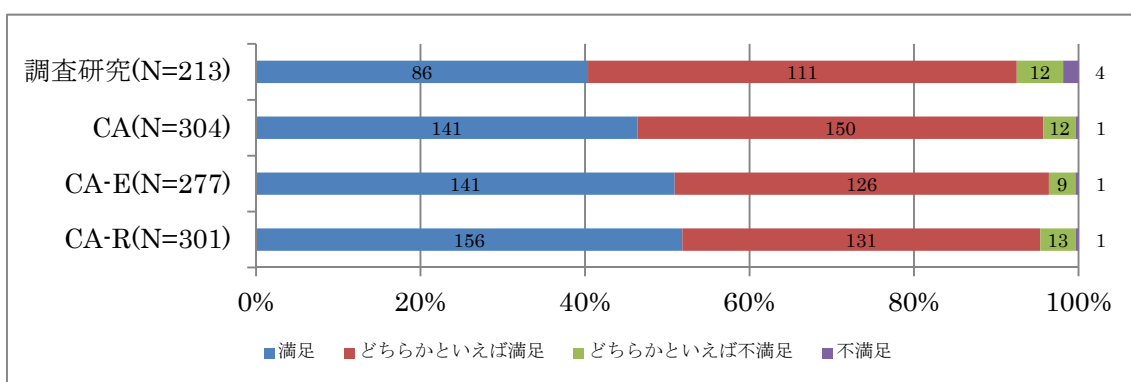
ソーシャルメディアや、知人・友人等を介した利用が開始されるユーザも全体の4分の1を占める。

CA ポータルは、国立国会図書館以外が発行する雑誌等のメディアに数度にわたり事業紹介記事を掲載している。また、過去のカレントアウェアネス等の記事は、他の論文等でも引用されている。しかしこれらのメディアをきっかけに利用開始したとの回答は、全体の5%未満となっている。

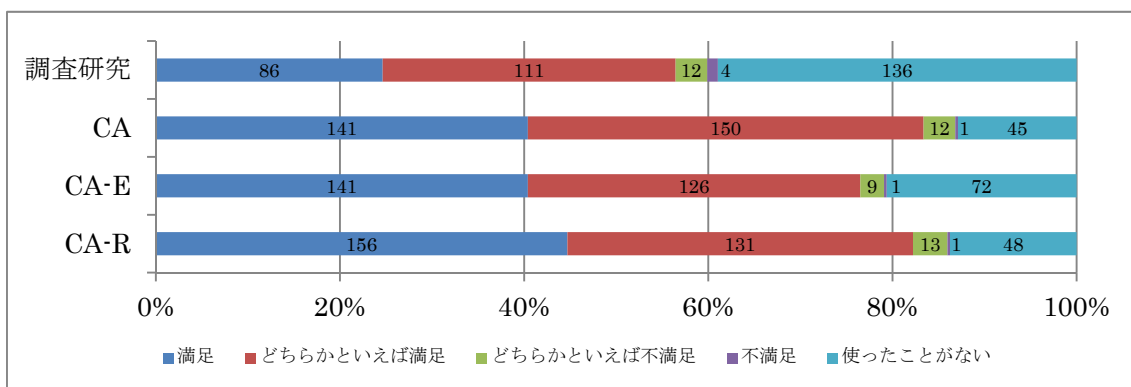
4. ユーザの満足度は？



図表 10 ユーザの満足度



図表 11 ユーザ中のコンテンツ別満足度



図表 12 全ユーザ中の未使用者の比率・コンテンツ別満足度の比率

ファクトと考察

全体の満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて 96.0%に達する。コンテンツ別でも、ユーザ中の満足度は、すべてのコンテンツについて 90%以上の満足度となっている。CA-R が最も高い満足度を獲得しており、次いで CA-E と CA がほぼ同程度の満足度となっている。

今回のアンケート調査では、特定のコンテンツしか利用していないユーザも存在すると

想定し、満足度調査においても「使ったことがない」との選択肢を用意した。これについては、調査研究を使用したことがないユーザの割合が突出して高く、全体の約 4 割であった。また CA-E についても約 2 割が「使ったことがない」と回答している。

不満足の原因

「不満足」、「どちらかといえば不満足」と回答したユーザが挙げたその理由、また「どちらかといえば満足」と回答したユーザのうち満足としなかった理由として指摘された点には、以下のものがある。

(a) コンテンツのバランス

- 先行する事例に触れずに、新しい事例だけを取り上げていることがある。
- 大学図書館というテーマで見た場合、抜けているものがある。ある程度の網羅性の確保も必要である。CA-R であるテーマについてレビュー記事が書けるかどうかという視点が欲しい。
- 関連情報が充実しているともっと助かる。
- 紙の情報や有料のウェブ上の情報であっても大事なものは積極的に紹介してほしい。

(b) 文体・書き方

- 1つの文章が長すぎる。もっと簡潔に纏めた文章に改めた方がよい。
- 伝聞調のスタイルを言い切り方になって欲しい。現時点では、大部分の CA-R コンテンツが、いうなれば通信社の配信記事をそのまま転記している状態にある。
- 内容のまとめを日本語で載せてもらえると助かる。海外の記事を日本語で読めると助かる。
- もう少し詳細を見たいことがある。
- @ca_tweet の見出しだけでは、国内の情報か海外の情報かの区別がしにくい。

満足度向上に向けての課題分析

CA ポータルに対し、より充実した情報の収集と発信を求める声がある。体制の強化や内外協力者の確保等の課題について、今後も継続して検討する必要がある。

CA ポータルのコンテンツ中、CA-R、CA-E については、原則としてインターネット上で契約の有無等に関わらず誰でも無料で利用できる情報のみを情報源としており、また限られたリソースの中で類似の情報発信活動を行っている方々との緩やかな住み分けも意識しているところである。図書館による情報発信活動や、無料で利用可能な図書館情報学分野の各種情報の充実化にご協力いただけるよう、今後も事業への一層のご理解をいただけるよう努める必要がある。

5. どのように役立てられているのか？

利用シーン（1）図書館員による利用

(a) 手軽なニュースソースとしての利用

手軽に、日常的に利用できるニュースアグリゲーションサービスとして使用されている。

- 毎日の新聞を読むような感覚で購読している。
- 日々「情報収集」の場として、役に立っている。
- 海外の記事のアブストが役立っている。英語が苦手なので、情報収集面でとても助かっている。またアブストを手掛かりに元情報を読むこともあり、勉強になっている。
- 図書館・情報関連の最新動向、ニュースなどを手軽に入手できるので、大変助かっている。
- 国内外の最新の情報が手軽に得られる。
- 自分の興味を広げられる。他図書館の状況を知り、実務に活かしている。

(b) 研修・研鑽ツールとしての利用

職員のレベルアップに活用されている。

- 自館にあったニュースをピックアップし、館内スタッフ向けに業界のニュースを回覧している。
- 他の職員もよく読んでいるので、国内外の図書館の動向について職員に説明せずとも、多くの職員に一定の知識が得られている状態となっている。CAポータルで出ている情報は既知という前提のもと職員間で話が始まることもある。
- 海外の情報やローカルな情報まで、タイムリーな情報をいただけるので、多くの研修会で見聞きすることには限度があり、話題の共有に役立っている。
- 朝礼の材料に使っている。

(c) 業務のための情報収集ツールとしての利用

同僚、設置母体、利用者等への説明の際の情報収集ツールとして、またイベント企画時の情報収集ツールとして使用されている。

- 母体組織の研究者への情報提供に役立っている。
- いくつか図書館のエビデンスにかかわる内容を、教員向けの会議資料の論拠として使用している。
- 学生に具体的な話をする際にお世話になっている。
- カレントアウェアネスで仕入れた情報を、図書館における学生向け利用ガイダンス

の際に小ネタとして使っている。

- セミナーの案内や、研修の事前準備等に変重宝している。
- 自館で開催したことはないが開催してみたいと思っていたイベントについて、実際の実施事例を知ることができた。
- 新規企画の立案時に、他大学の事例等を探すために活用している。
- 以前に掲載された「アメリカのぬいぐるみの図書館のおとまり会」を当館でも実施して、今では人気のイベントになっている。

(d) 調査研究活動ツールとしての利用

図書館員の調査研究活動において使用されている。

- 図書館情報関連の動向調査のとき、一種のDBとして利用している。
- 図書館業界のニュースを調べようと思った時、過去・最新のものもまずCAポータルを検索する。
- あるテーマについて調べているときに、動向レビューの記事を見つけることができ、助かった。
- 時おり、レポートなどに援用する。
- 図書館用語の意味がわからない時に辞書代わりに使っている。
- 過去の情報を調べるときもソース自体が見られなくなっているときも、CAポータルで記事があれば概要を確認することができるのでとても便利。

(e) 定常業務ツールとしての利用

定常業務において活用されている。

- 日常業務のなかで役に立っている。
- 実務に関連するツールの情報も取り上げられるので、役に立っている。
- 外国雑誌の選定に役立っている。
- 雑誌・電子ジャーナル・電子ブック・データベースの契約を担当していることもあり、国内外の状況を確認している。
- 大学図書館勤務なので、他大学の事情やシステム、学術情報に関する記事は、即、仕事に活かすことができる。
- 職員内で情報共有し、図書館業務の参考に使っている。

利用シーン (2) 研究者による利用

(a) 研究活動の補助ツールとしての利用

研究活動の補助ツールとして活用されている。

- 多すぎて書ききれないが、狭い意味では、依頼された仕事のサーベイのために最初

に見るサービスであり、CAをもとに芋づる式文献探索を行うことは多い。広い意味では、図書館にまつわる話題は数多く、個人一人では到底追いかけるのは無理であるが、CAをおいかけているだけである程度のフォローが効く。蛸壺型な志向にならずに済んでいるのはCAのおかげだと思っている。また、司書課程の教育に関しても、「最新のトピック」を紹介し、講義の導入、受講生の心を掴むために多く利用している。また娯楽としても、なかなか微笑ましい？記事があり、いい意味での時間つぶしとして利用している。

- 視野を広げる意味で大変役に立っている。図書館情報学や図書館にかかわる多彩なニュースが取り上げられており、視野を広げる点で有益な刺激を受けている。ともすれば自らが専門としている小領域にのみ目が行きがちですが、CAポータルによって、それを補っている。
- 取り上げている分野が多岐にわたり、また海外も様々な国、エリアからの情報もあり大変質の高いポータルである。図書館情報学をアメリカで研究しているものだが、このポータルが他言語でサービスされても十分顧客確保できるのではと思ってしまうほど。また日本語訳もすばらしく勉強になる。
- 大学、大学院時代から利用させていただいている。図書館業界は、もっとゆっくりだと思っていたが、毎日すごい情報が世界中から入り情報が更新されているので戸惑う。CAポータルがあることで、軸がぶれずに前に進めている。
- 見逃していた情報に気づくことがよくある。
- 最近の動向を押さえておくのにいつも役立つ。

(b) 授業の素材としての利用

授業用の素材として活用されている。

- 授業で話しをする際のネタにしている。
- カレントアウェアネスのコンテンツは図書館情報学を扱う大学の授業において、最新の動向を紹介する際に用いている。分量が多すぎず、かつポイントがきちんと押さえられているので、限られた授業時間で用いる教材としては大変有用だと思う。
- 授業で扱うトピックに関する記事がCA-Rで取り上げられており、最新の情報が参照できた。

(c) 情報発信ツールとしての利用

情報発信のチャンネルとして活用されている。

- 気軽に掲載をお願いできること。おかげで担当している事業が全国で認知された。

利用シーン (3) 学生による利用

(a) 研究活動や課題の補助ツールとしての活用

研究活動や課題の補助ツールとして活用されている。

- 現在卒業研究を進めているが、調べたい事柄の最近の動向を追うために使用している。比較的新しい情報が手に入るのも、大変ありがたい。RSS で情報が提供されるのも大変便利で、重宝している。
- ドイツならびにヨーロッパの歴史を研究しており、ドイツの図書館あるいは文献データベースの動向には常に興味を持っている。ドイツの図書館の状況や学术交流に関する情報も『カレントアウェアネス』でしばしば紹介されており、日本の情報も常に頻繁に更新されるポータルサイトとしての役割をよく果たしていると思う。非常に役に立っている。
- 図書館、書籍に関するトピックを幅広く迅速に収集できるので、とても役立っている。図書館情報学を学んでいるが、自分の関心領域以外のテーマについても最新のまとまった知識をソース付きで得られるのが有難い。
- 研究やレポートに利用した。
- ないと生活できないレベル。

利用シーン（4）図書館員や図書館学の研究に従事する人以外の利用

(a) 図書館について知るためのツールとしての利用

図書館についての情報源として、あるいは考察の素材として活用されている。

- 海外の国々が、知的情報、知的創造空間をどのように重要に考えているか、示唆するような情報がある。
- 私は単なる本好き・書店好き・図書館好きであり、国内と海外の図書館分野の事情の進展に興味があって読んでおり、図書館学の特定分野は専門ではない。しかし、図書館情報の IT 化にはとても興味があり、期待している。
- 調査研究でとりあげられるテーマは興味深いものが多い。特に海外の図書館情報が面白い。役に立った、ということはないですが、これから役に立ちそうだと思う。
- 世界を見ることで、日本の美が分かる。
- 国内外の広い分野を取り上げているので、業界周辺の動きに関心を持つようになった。
- これは日々、ピンポイントで何かに役立つということ以上に安定的に記事配信されていることに感謝している。
- ちょっと前に話題になった事例を調べるときなど、カレントに取り上げられていると、きちんと情報が残っていたり、周辺情報も一緒に得られるので、助かっている。

(b) 図書館との業務における利用

図書館につながる業務において情報源として活用されている。

- 参考になることばかりだが、最近だと「コンテンツマネジメントシステム“Drupal”の図書館での活用に関する情報源（記事紹介）」が、参考になった。図書館で Drupal の CMS ツール利用が出てきていることと、アメリカの drupa4lib のメーリングなどを知り、実は図書館で利用されていることが多いことがわかった。
- 例えば「ラーニングコモンズ」で検索をした時に、様々な絞り込みによって、テーマ毎の情報を読み込むことができる。その絞り込みの結果が「ラーニングコモンズ」の意味や現状を複層的に捉えることに繋がり、大変有益なリサーチになる。
- 教育に関する ICT 関連情報の収集、学校図書館情報の収集において役に立った。
- 原稿を書くときに、海外製品やサービスの動向などが翻訳されたり、レビューが出ていると大変助かる。
- 図書館に関してのトークイベントやワークショップの際の事前リサーチに役立っている。
- 特定のテーマに関して満遍なく雑学を広めることができたこと。その結果、図書館学に関する情報の世界ではこの程度まで人々の共通理解があるとの確信をもてる。これは自己の発言（や執筆）の背景的知識の基礎を構築できていると考えられるので非常に有益である。
- 顧客との話題共有、及び話題提供に役立った。
- 通常業務の範囲内ではわからない情報や知識が摂取できる（とくに首都圏のイベントや書籍出版以外の OA 動向など）。また東日本大震災後、地域の取り組みが積極的にとりあげられていて好ましい。
- デジタル図書の経年見読性の調査。

(c) その他の利用

図書館員や研究者以外においても、多様な役立ち方をしている。

- おもに外国の政府情報に関する情報収集をしている。個人で調査するには時間的・言語的に限界があるが、このサイトは信頼できる情報が、日本語で理解できるので、時間と労力の節約になり大変助かっている。参照先も多く記載してあるのも根拠を確認できるのですばらしい。
- 論文の参考になる資料を探すときに主に使っていた。海外の動向について知るきっかけとなるので便利だと思う。
- 原稿の情報源として役立った。
- 日々の情報入手に非常に役立っている。海外動向とイベント関係の告知が個人的にはとてもありがたい。
- 情報の即時性が役立つ。また、海外の情報を日本語で紹介してくれる場合は、英文を読むより時間がかからないので役立つ。

- 図書館勤務の時は、途中で図書館雑誌の購読を停止されてしまったので、図書館関係の情報を得るのに役に立った。特に電子書籍を中心にした先行きの見えない図書館の方向性を考えるのには、かなり役に立った。
- 全文や詳細を調べたいときに、報告書ごとに本家のリンクがはられていることが便利。
- イベントに関する情報収集でいつもお世話になっている。
- 詳細な記事と論文の掲載。スピード、専門性等すばらしい。
- 日本語でのサマリーの能力が抜群だと思う。特に海外ニュースの場合、いまひとつピンとこない内容でも、カレントアウェアネスの日本語サマリーを読んでからだと、理解が速くなる。

自由記述の解釈

これまで、CA ポータルの利用シーンについて、まとまったデータ収集が行われたことはなかった。今回のアンケート調査では、ユーザが具体的にどう役立ったと感じているのか、その認識をお寄せいただいたが、これにより、多様な利用シーンが明らかになった。

図書館員にとっては、手軽に、日常的に利用できるニュースサービスとして使用されている。特に CA-R は、2006 年の創設当時、図書館員にとっての日刊新聞のようなものが必要ではないか、という発想に基づいて企画されたものでもあり、その後もその意識を持って業務が継続されている。お寄せいただいた記述からは、図書館員が手軽に、日常的に目にするニュースソースとして、一定の役割を果たしていると考えられる。この役割は、図書館員の自己研鑽活動を支えるものとも位置づけられるものであるが、お寄せいただいた意見からは、一部の図書館においては、組織レベルでも、職員のレベルアップのためのツールとして認識されていることもうかがえる。

また、CA ポータルでは、速報性のあるコンパクトな内容の CA-R に加えて、2002 年に開始され原則隔週配信を続けている CA-E、既に 30 年以上の歴史を持ち現在は季刊となっている CA、そして年度単位で実施している調査研究という、現在合わせて 4 種類のコンテンツを通じ、図書館員の業務や調査活動における多様なニーズに応えることを目指している。お寄せいただいた記述からは、同僚、設置母体、利用者等への説明の際の情報収集ツールとして、またイベント企画時の情報収集ツールとして使用されていること、また蔵書構築やレファレンスサービスなどの業務においても活用されており、図書館員の従事する業務内容に応じ、様々に活用されていることが明らかになった。

図書館情報学の研究・教育等に関わる研究者にとっては、研究・教育活動の補助ツールとして活用されている。この領域の研究活動の基本ツールとして、一部には最初に見るサイトにもなっている。CA ポータルは、蓄積された過去の記事の全てが全文検索可能なアーカイブシステムであり、最新情報を知るというニーズだけではなく、過去の出来事を知るといったニーズにも対応しうるものへと成長し続けている。この点が、調査の便利な基本ツ

ールとして評価されているものと考えられる。

授業用の素材としても活用されており、また、研究者自身、大学院の頃から使用していたとの記述もある。これからは、これからの図書館界を担う世代への情報提供ツールとしても機能していることがうかがえる。

研究者にとって、情報発信のチャンネルとしての認識もあることが示されている。今回の調査では、主にユーザとしての立場から回答を求めたものであるため、お寄せいただいた記述においてはわずかととはなっているが、研究者から、多くの情報を提供していただいている。研究者にとって、情報発信の 1 つのチャンネルとして、一定程度評価されていると考えられる。

図書館界の外からの利用についても、今回明らかになった大きな特徴である。図書館について知るために、あるいは考えるために、活用されている。また図書館とのつながりがあるとされる業界においても、図書館員とのコミュニケーション等のために活用されている。さらには、CA ポータルで取り上げているテーマによっては、図書館業界以外の人からも、調査研究等のために活用されているものがあることもうかがえる。

広報上の課題

これまで明確なエビデンスの存在しなかった利用シーンについて、多くのデータを得ることができた。一方、今回のアンケート調査に回答を寄せてくださったユーザは、349 人であり、その 7 割が週に 1 度以上利用する、いわばコアユーザである。コアユーザにより示された貴重な知見やノウハウについては、今後、共有化していく価値のあるものと考えられる。CA ポータルの使い方に関する広報活動上の課題であると考えられる。

6. 充実すべきコンテンツは？

テーマ・トピック

充実すべきコンテンツとしてお寄せいただいた意見に示されたテーマやトピックを示すキーワード、キーフレーズには以下のものがある。

電子ジャーナル、電子書籍、デジタル教科書、データベース、電子情報の長期保存、電子情報のフォーマット、電子リソースの契約、電子情報の物理的メディア、デジタルアーカイブ、モバイル技術、モバイルアプリ、API、SNS、CMS、IT、ウェブ技術、オープンアクセス、研究成果の発信、文献管理ソフト、典拠、アクセシビリティ、FRBR化、RDA、メタデータ標準、セマンティックウェブ、オントロジーの言語間比較、図書館業務システム、ディスカバリー、OPAC、図書館のモバイルサービス、図書館員の待遇、非正規職員、図書館の外部委託、指定管理者制度、学校司書の配置、指定管理者制度、図書館のエビデンス、図書館の評価、図書館の広報活動、展示、ナショナルライセンスに関する著作権処理、海外図書館との相互利用、紙資料の保存、紙資料の劣化、紙資料の脱酸性化、図書修理、映像資料、MLA 連携、海外の出版社、図書館と関係する流通、図書館と関係する商業施設開発、図書館と関係する地域開発、文化継続性、これからの図書館、これからの図書館員、東日本大震災からの復興

国・地域という観点では、アジア諸国、欧州諸国、英語圏以外の諸国、開発途上国などの地域についての要望があったほか、具体的な国としては、中国、韓国、台湾が挙げられた。

機関・団体という観点では、国内外の博物館、美術館、文書館、あるいは専門図書館についての要望があったほか、国内の図書館と関係する学会（情報メディア学会、日本出版学会）、企業、任意団体の情報についての要望もあった。

特に具体的な CA、CA-E 記事が想定されるテーマやトピックとしては以下のものがある。

- 図書館に電子書籍を導入する（した）事例とその後の課題について。
- 国内外の、今まで図書館を利用していなかった人にアピールできるようなイベント等について。
- 利用者が何を求めているかを調査する方法について。
- 新しい形の利用者教育について。
- 海外の図書館での MANGA 資料の取り扱いについて（入手経路と保存、利用状況）。
- 多くの図書館が抱えているような、図書館の日常業務上の問題とその解決方法について。
- 国立国会図書館の所蔵するレコードなどの音声記録媒体について。

- 映像資料の収集に関する動向について。
- 米国公共図書館における CMS の活用について。
- 米国主要都市の公共図書館の OPAC の機能の動向について。
- 新館オープンした図書館、注目の図書館などの画像付きの記事シリーズ。
- 海外の図書館システムに関する記事シリーズ。

具体的なトピックではないものの示唆に富む意見としては、以下のようなものがあった。

- 中小規模図書館（館種問わず）の面白い取り組み。
- 現場の状況に即応する情報。
- これから司書を目指す人に知って欲しいという類の情報。
- イベントや関連する業界団体のイベントカレンダー。
- 図書館に批判的な内容の記事で、内容の優れたもの。
- 現場の図書館員の声や図書館リレー記事。
- 世界の図書館員の紹介。
- 数年経ちブームが少々落ち着いたトピックのフォロー記事。
- 査読された海外の文献。
- 主流動向誌（レビュー誌）などの動向。
- 海外の翻訳記事。
- 図書館の時事用語解説や定義。

自由記述の解釈と今後のコンテンツ充実化に向けた課題

テーマやトピックとしては、これまで CA ポータルでも頻繁に取り上げて来ているものが多い。これらについては、今後も継続すべきというニーズの表れであると解釈できる。

一方、図書館の業務のうちでも、比較的安定した業務となっている領域については、新しい“動き”にフォーカスしたメディアである CA-R、CA-E、CA では取り上げづらい性格のものとなっており、現状記事が少ないのは確かである。今回、これらの領域に属するトピックに対する要望があったことは、重要な点であり、今後の課題である。なお、CA-R を中心とした情報収集活動は、図書館等からの情報発信に依存している側面があり、明確な新規性のアピールなど、今後の関係者の情報発信活動に期待するものでもある。

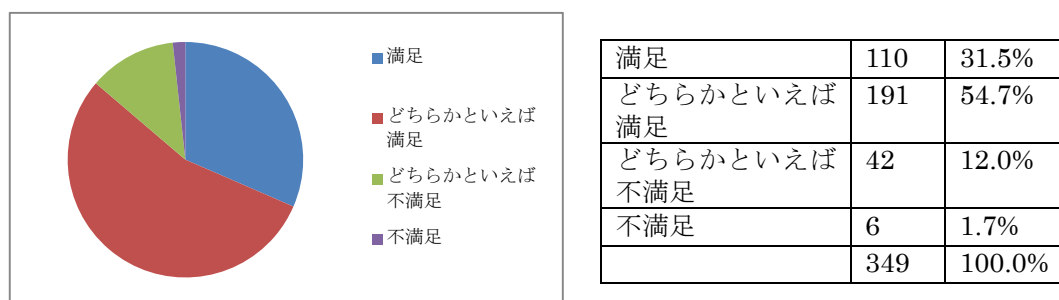
国・地域・言語の観点からも、これまで CA ポータルではあまり取り上げられていない部分に対する的確な指摘があった。これらの部分への取り組みも、今後の課題である。

また館種の観点からは、博物館、美術館、文書館に関する情報への要望が、図書館員のユーザからも、研究者のユーザからも寄せられた。MLA の連携・協力への関心の表れであると考えられ、これらの部分への取り組みも、今後の課題である。

今回のアンケート調査では、CA あるいは CA-E の記事として具体的に企画化しうるものも多く寄せられた。これらについては順次取り組んでいくことが可能であると考えられる。

また、漠然とした要望の中にも、企画の立て方や記事の書き方等に活かせるものが多く寄せられた。これらについては、記事の企画に協力していただいている編集企画員、編集協力員、実際の執筆を担う執筆者とともに、企画から執筆、編集、そして CA ポータルの運営の全プロセスにおいて、意識していくべき点である。

7. 見た目と使い勝手の改善すべき点は？



図表 13 デザイン・機能の満足度

CA ポータルのデザインに対する満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて約 86%となっている。肯定的な意見としては、以下のような意見が寄せられた。

- シンプルで良い。
- スタイリッシュで良い。
- 読みやすくて良い。
- Twitter でもフォローできるのが良い。
- タグ機能で海外、日本、館種などで分けられ使いやすくて良い。
- タグ機能により同じテーマの機能を通覧できるのが良い。

ただし、CA ポータルのデザイン・機能についての満足度は、CA ポータルに対する全体的な満足度に比較するとやや低く、「どちらかといえば不満足」「不満足」との回答は合わせて約 14%にのぼる。「どちらかといえば不満足」「不満足」とした回答者は、以下のような点を指摘している。

- 見づらい（字の色、字の大きさ、行間の幅、写真・イラストなどが無いこと、等）。
- CA-R の一覧には最新記事も過去のアーカイブも本文の一部を掲載したものしかない。見出しのみのブラウズができない点が見づらい。
- キーワードで分類した表示もできる等、関心のある分野の情報をより簡単に得られるよう工夫して欲しい。

CA ポータルのデザイン・機能に関しては、2006 年の創設以後、2008 年 3 月に CMS を XOOPS から Drupal に切り替えて、また検索システムに solr を導入し、現在に至る。この期間中、利用者は増加し続けており、利用シーンも多様化してきていると考えられる。そこで、今回の調査では、今後システム面においてどのような改善をすべきかについて、意見を求めた。

基本的ナビゲーション

CA ポータルのユーザは、必ずしも CA-R、CA-E、CA、調査研究のすべてのコンテンツを使用しているわけではない。今回の利用者アンケートでは、それぞれのコンテンツについて、1割から4割のユーザが、その存在を知らずにいることが明らかになった（図表 12 参照）。これらは、基本的ナビゲーションの改善点として、以下のような意見が寄せられた。

- 「CA-E」「CA」「調査研究」のそれぞれの切り分け方が少しわかりにくい。
- CA-R、CA-E などの位置づけの違いが初見の人はわかりにくいと思われる。「このサイトについて」のメニューはもっと見やすい位置にあってもよい。
- サイトのカテゴリへの名前付けを変更してもっとわかりやすいものにしてほしい

モバイル

更新情報は Twitter 等で把握されているケースも少なくなく（図表 6 参照）、Twitter のフォロワー数も 7,500 以上（アンケート調査時）となっている。しかしながらアクセスログの解析によると、携帯端末からのコンテンツの利用はわずかに数%にとどまる。ここには、携帯端末からの見づらさが利用の阻害要因となっている可能性がうかがえる。携帯端末からの見づらさについては、以下のような意見が寄せられた。

- iPhone でみると文字が小さく感じる。
- スマートフォン向けインターフェイスを早期に導入して欲しい。
- スマートフォン用アプリが欲しい。
- iPhone では 2 カラムでない方がモバイル端末では読みやすいかもしれない。
- モバイル端末で見やすいレイアウトも用意していただければ活用する人が増える気がする。

印刷機能・パーソナライズ機能

国立国会図書館が配信するメールマガジンは打ち出して館内で回覧されていると、一部の図書館からは聞いているが、今回の調査でも、自館に合ったニュースをピックアップし、館内スタッフ向けに業界のニュースを回覧しているとの記述も見られた。印刷機能へのニーズはあると考えられるが、これについては以下のような意見が寄せられた。

- CA-E などの印刷用のページについて、PDF 版があるとよい。
- 用紙の節約のため、印刷用ページのヘッダ部分（ロゴ等）を小さめにしてほしい。

ビジュアル・直観性

CA ポータルでは、ビジュアルデータは CA や調査研究の PDF 内の写真・図表等で使用しているのみであり、CA-R、CA-E は文字による情報伝達のみとなっている。これにビジュアルデータの少なさに起因すると思われる見づらさについては、以下のような意見があ

った。

- 字の羅列のみであるため、少々見づらい。色使いに工夫が欲しい。
- ハイパーリンクが赤のハイライトで目が疲れるので、もっと目に優しい色にして欲しい。
- 赤文字がちょっと苦手。もう少しトーンを落ち着かせて欲しい。
- サイトのレイアウトがやや単調。絵や写真や色をむやみに入れて欲しいというわけではないが、メリハリをつけ、読みやすい画面にして欲しい。
- 色調が暗い。
- PC向けサイトは情報デザイン面でももう少し直感的だとよい。
- 改良してほしい点ではないが、文字が赤系なのは何か理由があるのか？

また、改善策として以下のような意見があった。

- CA-Eの「文献紹介」は書影がほしい。カーリルなどへのリンクでもよい。
- テーマなどにはアイコンかもしくはカラーバーのような視覚的識別があってもよい。
- ニュースやトピックに関わる画像が一つでもあると、イメージも膨らみ読んでいて楽しい。

検索機能・ブラウジング機能

CAポータルは、オープンソースを活用した自作システムからスタートしており、現在はCMSにDrupalを使用している。また検索エンジンにはSolrを使用し、記事登録時に付与するタグにより、検索性・ブラウジング性を維持している。一方で、CAポータルは、CA-R約14,000本（アンケート調査時）など、膨大な数の記事が登録されている。コンテンツの増加と共に、検索機能の重要性が高まっている。また、CA-Rは毎営業日平均10件程度が登録されており、ブラウジング機能の重要性も高まっている。実際、検索機能、ブラウジング機能に関し、以下のような意見が寄せられた。

- フリーワードだけでなく、年月日との組み合わせのような詳細検索ができればよい。
- 検索式も使えるようにしてほしい。
- サイト内の記事検索が引っかけにくい。Googleでカレントアウェアネス+キーワードを入力して探してしまうこともある。
- 検索方法の説明が少しわかりにくい。絞り込み機能などでどういった機関の情報なのか「日本の公共図書館」「日本の大学図書館」がわかると使いやすい。
- 過去に取り上げたテーマについて容易に検索できるシステムを開発していただきたい。現行の記事末尾には関連分野や記事に関する類似サイトの引用が可能になっていることは一種の代替手段となっているといえる。
- 二つ以上のタグでも絞り込み可能にいただけると嬉しい。検索フォームでタグ

に用いられている複数の用語を検索しようとする、ノイズが多くなってしまふ。

- 現状では絞り込みやファセットなど検索機能が充実していない。書誌の検索と同じように簡易な見出しのみの一覧が見られないため、情報の取捨選択がしづらいという点がとても残念。
- 国内と海外の動向を別フィードにして欲しい。
- キーワード検索の語句の表示形式は他のサイトでも同様の表示を多く見かけるが、ランダムなのか関心の高い（アクセスの多い）語句順なのかはわからないが、無秩序にならんでいて非常に検索しにくい。特に、「一覧する」で見るとさらに悲惨で、一言で醜い。
- 今のタグクラウドのものはごちゃごちゃしていてどんなキーワードがあるのか把握できない。キーワード（テーマ）の一覧ページが欲しい。内容によって分類整理されていて箇条書きで一覧できるものがほしい。
- リンクをクリックしたとき、新規タブで開くようにして欲しい。
- 外部サイトへのリンクは別窓で開くようにしてほしい
- 記事のリンクを辿る際、新規タブで移行しないので、他の記事を読もうと思った時に不便。
- CA-E や CA の画面はトップから 2 階層くらい通号 No.しか表示されていないが、各記事のタイトルだけでも表示があればバックナンバーの拾い読みがしやすいと思う。
- CA-E のバックナンバーの記事のタイトル一覧について、通覧がもっとしやすくして欲しい。現在は各号ごとに一覧になっているので、タイトルを通覧したいときには一度上位（年ごとのページ）に戻って号を選び直している。年ごとのページで各号のタイトル一覧がすべて表示されてもよいのでは。
- 更新具合が見づらい。
- 数日経つと“一覧する”からブラウジングすることになるが、現状、全文が表示されてしまうので、見づらい。月日やキーワードによる検索結果も同様に見づらい。
- CA-R のページでも、トップページのように見出しと日付のみの表示画面を用意して欲しい。
- あるトピックについて網羅的に記事を追っていくという使い方を主にしたいが、現状ですと難しい。
- ユーザ登録をして、個別のユーザ ID ごとに記事を、保存しておきたい記事、後で読む記事などフォルダ分けできたり、検索キーを保存できたりすると嬉しい。
- CA-E をメールマガジン送信と同時に、カレントアウェアネス・ポータルに掲載して欲しい。

新機能

CA ポータルの現状と性格を踏まえ、新しい機能についての要望も寄せられた。

- 自館の活動を含め、取りあげて欲しいトピックがあるときに気軽に情報を投稿できる Web フォームが欲しい。
- 図書館職員や、図書館に興味のあるいわば「図書館人」を対象とした SNS が欲しい。
- 「図書館にライバルはいるか？いないか？その理由は？」などの図書館員に聞く場が欲しい。

不具合・その他

システム上の不具合や、記述上の工夫すべき点として、以下の意見が寄せられた。

- 紹介される PDF ファイル等のファイルサイズを表示して欲しい。
- 記事執筆者が研究者である場合 **Researchmap** へのリンクをはって欲しい。
- 文字サイズを変更すると他のコラムの文字とリンクの文字が重なる。
- カレンダーの表示がしばしばおかしくなる。

8. 今後の取組みについて

利用者アンケートにより、現状分析と課題分析を行った。これらに対し、具体的な取組みを進めていく必要がある。アンケート調査においても顕著に指摘された携帯端末からの利用のしづらさについては、既に検討していた点でもあり、調査と並行して対応を進め、調査期間終了後の10月9日にレスポンシブウェブデザインにより、解決を図った。これに対してユーザからは、見やすくなった等の感想をお寄せいただいたところである。この携帯端末向けインターフェースへの取組みも含め、今後順次可能な取組みを進めていく。随時CAポータル「お知らせ」コーナーを通じてアナウンスする予定である。

現在までに実施済み・検討中の取組み

- 携帯端末向けインターフェースのリリース（レスポンシブウェブデザインの採用）
- 類似記事自動表示機能の正式リリース
- CA-E（メールマガジン版）の記事へのCAポータル上の記事URLの付与
- 検索機能の使い勝手向上および利用方法案内
- ブラウジング機能の使い勝手向上および利用方法案内
- 海外重要論文の文献紹介の強化（大学院生等によるCA-E執筆協力者の募集）
- アジア諸国に関する情報の発信強化
- コアユーザのノウハウを共有する広報資料の作成と公開
- 要望受付フォーム

など

番外編：アンケートにお寄せいただいた温かい応援メッセージ

今回のアンケート調査では、数多くの応援メッセージもたくさん頂戴いたしました。ここでは紹介しきれないほどですが、一部紹介させていただきます。

- CA ポータルは国内図書館において情報のインフラになっている。
- 国内、海外の動向を伝えて頂ける媒体として、これからも期待しています。
- 硬軟取り混ぜたトピックの選び方が絶妙だと思います。
- 貴機関のカレントアウェアネス・サービスは貴重であり、感謝している。
- 文献、URL 等の参考元をきちんと表記している点はさすが図書館関連のサイトだなと思う。
- 無料でこんなに質の高い情報を得ることができて申し訳ないほどですが、助かります。
- 図書館業界はかなり視野が国内あるいは対象自治体内になりがちなところを、カレントアウェアネス・ポータルは思いっきり広げていると思います。
- 日本にこのようなサイトがあることをもっと知ってほしいです。いつかわたしも文章を書いたり、記事の一部になるようになりたいと願いながら司書講習を受けています。
- あれだけの大量の情報を読みこなした上で、国会図書館からのニュース、という責任を持ったかたちで編集・発信しているのは相当に大変な事だと想像する。
- 情報としてとても勉強になりますし、ご担当者の方の意識の高さを感じて自分も頑張ろうと刺激を受けています。
- 様々な声が寄せられるかと思いますが、期待の表れだと思います。批判の 100 倍は感謝があると信じて、頑張ってください。
- このようなサイトを発展的に持続されている運営者のみなさまに頭が下がります。細やかながら応援していますので、これからも頑張ってください。
- 情報の質や内容、そして言葉使い（表現）から、スタッフの皆さんの並々ならぬ努力と苦心をネット越しに感じております。
- カレントアウェアネス R の記事も署名入りしてはいかがでしょう？ 縁の下の力持ちを自他共に認めているのかもしれませんが、もったいないような…。
- カレントアウェアネスは、どのサービスもとてもよく利用しており、非常に役に立っています。一つだけ気になるのは、署名なしの記事があること。
- コンテンツを整えていく作業は大変でしょうが、従来の図書館員の必要能力としての抄録・抄訳が忘れられている昨今では良い見本にもなります。
- 係の方は毎日どのように情報を集めていらっしゃるのか、教えていただきたいと常々思っていました。
- カレントアウェアネス・ポータルを取り上げたシンポジウムは開催されませんか？
- みなさん、どんな使い方をしているのか、興味があります。

カレントアウェアネス・ポータル利用者アンケート結果レポート 2012

平成 24 年 11 月 15 日 発行

編集・発行 国立国会図書館関西館図書館協力課調査情報係

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

電話 0774-98-1448 FAX 0774-94-9117

Current Awareness Portal [<http://current.ndl.go.jp>]

©2012 National Diet Library All rights reserved.